

少年

第422号(1) 令和3年5月(皐月)発行



山梨県警察本部
生活安全部 少年・女性安全対策課
甲府市丸の内1-6-1
055-221-0110 内線3082
少年対策官 山岸正人

見方を変える



「夏も近づく八十八夜…」これは「茶摘み」の歌の歌詞です。八十八夜とは立春(2月3日)から数えて、88日目にあたる日のことで、このころちょうど、お茶の新芽が摘み頃となることが歌詞の発端のようです。

日本では、月の満ち欠けをもとにした旧暦が使われてきました。旧暦は、季節とずれやすいため、農業の目安にするには不便な点がありました。そのため、太陽の動きを基準にした「二十四節気」や日本の気候風土を上手に言い表した「雑節(ざっせつ)」という暦日が使われてきました。雑節は、日本人の経験から生まれた、生活の知恵。八十八夜は毎年5月の初め。春から初夏へと移り変わる季節。種まき、田植え、茶摘みと農作業本番です。植物、生物同様に、私たちも活動の季節となります。


「今の自分だからできること」

「あのころはよかった」、「昔はよかった」…。多くの人が口にしたことのある言葉だろう。

人間には過去美化バイアスといわれる記憶の偏りがある。これは過去のことを、当時、感じていたよりも美化して思い出してしまうというもの。この記憶の仕組みは、人間がストレスを軽減するための方法として進化の過程で脳に備わった機能という。

人間は、実際、美しい記憶も嫌な記憶も、最初は同じレベルで脳の中に記憶する。ところが人間の脳はうまくできていて、嫌な記憶には意図的に抑制がかかり、思い出しにくくなっている。一方、美しい記憶は思い出すこと自体が快感である。その結果、美しい記憶ばかりが思い出しやすくなり、そのたびに都合よく変化させながら、また脳にしまわれていく。


こうして嫌な記憶の方は、ほとんど思い出されず、美しい思い出だけがどんどん美化されていくのである。

新年度がスタートして1か月半。
新たな環境での生活が思うようにならず、

「あのころはよかった」。

こんな思いを抱いている人もいるかもしれない。もちろん実際に当時の方がよい面もあっただろう。しかし、すべてがそうかと言えばそんなことはないはずである。

人間の記憶には、こんな作用があることを認識した上で、上手につきあっていきたい。

白血病の診断から2年、東京五輪の代表選手に決まった水泳の池江璃花子選手。 
言葉が心にとまった。

抗がん剤などの厳しい治療で、体重は一時、約15kg落ちた。昨年3月にプール練習を再開し、「第2の水泳人生」と位置づけ、タイムも着実にあげてきた。病気になる前の記録には及ばなくても、復帰後、タイムが速くなるたびに「自分の中ではベスト」。過去の自分の残像を振り払ってきたという。


「退院して、目標としていた大会にも出場できました。うれしい反面、練習で勝てず悔しい思いをしたり、気持ち落ち込んだりすること

もありました。そんな時こそ、言い訳をせず、状況を把握し、自分を理解することの大切さも学びました。

目標を立てることは、自分を一步前に進ませ、大きくしてくれるものだと思います。家族、仲間との存在や病の経験を力に変えて、『過去の自分』ではなく、『今の自分だからこそできること』を探し続けてきました」。

私たちは、日々の生活の中で思い通りにならないことにたくさん出会い、それを乗り越えながら成長していく。過去から学ぶことは大切である。しかし、「過去」を振り返ったところでできることは限られる。だからこそ、今の自分にできることに目を向けていきたい。

「一礼」


アメリカで開催された世界四大ゴルフトーナメント大会の1つ、マスターズ。 
最終ホールピンフラッグ(旗竿)からフラッグ(旗)を外して優勝者が記念にするのは、ゴルフ競技での恒例行事。キャディーは黄色い旗を外して、ピンをカップに挿した後、帽子をとってコースに対し一礼をした。

日本男子初のメジャータイトルを獲得した松山英樹選手とともに、優勝直後、キャディーの早藤さんの行動がSNS上で話題を呼んだ。

この行為を見たあるプロゴルファーは「ゴルフ、いやスポーツで最も美しい場面」と称賛した。インターネットでは「胸が熱くなった」と多くのコメントが寄せられた。

当の本人は「特別な感情はなかった。ただ『ありがとうございます』って」と語った。

一礼をするのは早藤さんの言葉のように、当たり前感謝と敬意の表示だったかもしれない。しかし、その感謝や敬意の振る舞いは、見る者の心を揺さぶったのだ。

海外の方の言葉から、何事にも「感謝の感情」を表せることの素晴らしさ、美しさに改めて気づかされた。そして、私たちのまわりでも 
そのような姿が当たり前に行われていることを誇りに思うと同時にこれからも大切にしていきたい。

発行番号は昭和61年初号からの通算番号です。

https://www.pref.yamanashi.jp/police/p_syonen/shonenkoho.html

非行少年を生まない社会づくりの一層の推進を

刑法犯少年の検挙人員は、減少傾向にあるものの、依然として少年による、社会の注目を集めるような凶悪事件は後を絶ちません。本県の傾向として特に気になる点は、刑法犯少年の再犯者率と共犯率です。非行少年の背景には、「少年自身の規範意識の低下やコミュニケーション能力の不足」「家庭や地域社会の教育機能の低下」、「少年が自分の居場所を見出せず、孤立し疎外感を抱いている現状」等が見られ、こうした問題の解決に関しては、社会全体で取り組む必要があります。

次代を担う少年の健全育成を図るため、次の2本柱を中心に「非行少年を生まない社会づくり」を推進しています。

① 少年に手を差し伸べる立ち直り支援活動

警察が過去に非行少年として取り扱った少年及び保護者に対して、警察の側から積極的に連絡を取り、必要に応じて支援を申し出ます。支援を求める少年については、教育委員会、学校、就労支援機関等の関係機関やボランティア等とも連携し、

◇ 定期的な連絡・相談、家族への助言 ◇ 就学・就労に向けた支援

◇ 少年が参加する社会奉仕体験活動・生産体験活動等の機会の供与

などを行い、立ち直りを支援します。

具体的な活動として、山梨県教育委員会生涯学習課が行っている事業を紹介します。

スマイルサポートプロジェクト (通称：スマサポ) ～少年サポートネット推進事業～

【問題を抱えた少年の立ち直り支援】

・問題行動 ・SNS、ゲーム依存 ・犯罪被害 ・家庭内暴力 ・不登校 etc.



スマサポ支援の4本柱



◎第1 体験活動

農業体験、物作り体験、料理実習、軽スポーツなど様々な体験活動

◎第2 学習支援

支援コーディネーターによる個別指導、学生ボランティア等と連携した学習支援

◎第3 就学支援

面接の練習、職業体験、相談機関とも連携した就学支援

◎第4 家庭支援

生活習慣の改善、子供・保護者への相談、面接等、良好な家庭環境構築のための家庭支援



困っていない？
支援を必要と
していない？

【お問合せ】少年サポートネット推進事業《事務局》

山梨県教育委員会 生涯学習課 青少年保護育成担当 TEL 055-223-1357

② 少年を見守る社会気運の醸成

社会全体として、少年の特性や非行に走る要因・背景等について理解を深め、少年が孤立し非行に走ることはないよう、地域全体で厳しくも温かい目で少年を見守る気運を醸成するため、

◇ ボランティア等の協力を得た通学時等の声掛け・あいさつ運動

◇ 低年齢の少年及び保護者に対する非行防止並びに規範意識向上教室

◇ 万引きや自転車盗等を防止するための官民連携した対策

などを行い、地域社会の絆をより強化します。